

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
64

振興協議会だより

【発行日】令和5年12月20日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600



「第13回日本ジオパーク全国大会in関東」―銚子ジオパーク― 10月28日・29日

日本ジオパーク全国大会が関東地区で開催されました。今大会は2会場に分かれており、中央会場は銚子ジオパーク、サテライト会場はジオパーク秩父で様々な内容が実施され、苗場山麓ジオパークガイドの会もそれぞれの会場に参加してきました。

一日目は、基調講演で日本地質学会会長である茨城大学理学部の岡田誠氏の「チバニアンと地質遺産」をお聞きしました。チバニアンには一般の見学者も多く来るが、見ても理解できるものではない。地質遺産であるかどうか専門家が判断できることであり、観光として見せるには、どのような見せ方がよいか検討する必要があると話されていました。その後、基調提言で糸魚川市観光協会事務局長の齋藤清一氏より「ジオパークは誰のためのもの？」と題したお話では、山口大学の脇田先生の言葉を引用し、ジオパークは、「今、生きている人のためではなく、子どもたちやさらにその子孫のための活動である」、そして「今の人たちが優先されるのではなく子どもたちや、その子孫の優先度が高い」そのために「ジオパークをしっかりと知る」、「地域の目的・目標を明確にする」、「常に繰り返す（継続する）」ということをお忘れずに活動していくのが大切であると話されていました。午後1時から、分科会②ジオパークから考える川・海のゴミ問題に参加しました。内容は基調講演、事例紹介、ビデオメッセージリレー、現地見学（海洋ゴミ拾い実践）と多岐にわた行われました。海洋ゴミ拾い実践では、分科会の会場である千葉科学大学前の海岸で、ゴミ拾いとマイクロプラスチック採取を実施し、波打ち際の砂を海水で洗うと色とりどりの小さなプラスチックが多数確認できたことから、ペットボトルなど資源において決められた処分方法を守ることの大切さを思い知らされました。



ポスターセッション（銚子）

二日目は、ポスターセッションに参加し、苗場山麓ジオパークのポスターの前で、「雪に育まれた自然と歴史文化」「川と火山によって作りだされた大地」、その地を訪れた江戸時代の文人「鈴木牧之」、「秘境秋山郷」について熱く説明を行いました。

今大会に参加して、全国各地のジオパーク関係者と交流が出来たことはかけがえのない時間となり、会場の熱気に触れ、改めてジオパークに対する熱い思いが湧き上がり、地域のために頑張らなければと強く思いました。

【ガイドの会代表・小島 隆夫】



「第13回日本ジオパーク全国大会in関東」―ジオパーク秩父― 10月28日・29日

秩父会場には、事務局2名、認定ガイド3名が参加しました。秩父会場はサテライト会場のため開会式、基調講演などはオンライン中継で視聴しました。

分科会では、⑦「ジオパークから発信するサステナブルツーリズムの今」、⑧「つながりを取り戻す―フェノロジーカレンダーで地域風土を再発見―」、⑨「各地の事例から考える ジオパークの教育・学習の意義とは？」、⑩「ジオ・エコ・ヒトなぜジオパークで生態学？」の4つの分科会にそれぞれ参加しました。

⑧の分科会では、苗場山麓ジオパークの佐藤雅一室長がパネラーとして登壇し、当ジオパークの紹介や、フェノロジーカレンダーの取組、考え方について講演し、その後ディスカッションを行いました。会場の参加者もそれぞれ意見交換を行うなど、少人数の強みで各地の情報共有が行われました。

二日目の口頭発表では、下北ジオパークより、江戸時代の旅行家「菅江真澄」の記録を基に地域のフェノロジーカレンダーを復元し、ジオパークとの繋がりを紹介する発表がありました。ポスターセッションでは、苗場山麓ジオパークにおける小・中学生、高校生の取組など教育をテーマに紹介しました。昨年度から日本ジオパークの全国大会では、ユースセッションが始まり小学生や中学生、高校生の参加が増えてきている印象がとても強く残りました。



分科会⑧（秩父）



津南小学校4年生 総合学習発表会 11月7日

まちなかオープンスペース「だんだん」において津南小学校4年生「あおぞら学年」による総合学習の発表会が開催されました。

今年度、校外学習で巡検したジオサイトについてグループ毎に発表が行われました。クイズ形式で観客に問いかけたり、写真やイラストを利用したり、劇で表現したり各グループにより様々な方法で学んだことを発表していました。ガイドをする我々にとって、うれしくも楽しいひと時でした。学んだ子どもたちが将来、住み慣れたこの地域だけでなく、他の地域に住んだとしても、生まれ過ごした地域に誇りをもって歩み、これからも発信してくれることを願うばかりです。

ちなみに4年生のジオサイト巡りでは、まず5月：外丸の矢放神社と八本杉を皮切りに、笹葉峰の大崩壊・見玉不動尊、6月：見倉と見倉風穴、蛇淵の滝・布岩山・山の展望台、7月：阿部家・常慶院、極めつけは、切明の川原の温泉と6回11箇所を回りました。

巡検当日に、それぞれのジオサイトについて写真と簡単な観察ポイントを掲載したしおり（A3カラー版）を提供し、学習の振り返りにも利用できるように工夫しています。

コロナ禍が過ぎ、児童生徒の校外学習が盛んになってきている現在、学校に赴く立場としては、前年度と同じ解説資料ではなく内容や方法を見直し、児童生徒たちに分かりやすく伝え印象に残るようなガイドを心がけていきたいと考えています。



劇とクイズを取り入れた発表の一コマ



芦ヶ崎小学校3・4年生 新潟圏域ジオパーク子ども交流事業 11月28日

昨年からはまった新潟圏域ジオパーク子ども交流事業（オンライン）を見学してきました。

新潟県内は、糸魚川世界ユネスコジオパーク、佐渡ジオパーク、苗場山麓ジオパークの3つがあり、どちらも片道2時間以上かかるため、気軽に直接会って交流するのが難しいところでした。コロナ禍を経て当たり前となった、カメラやパソコンを駆使し、超高速のネット環境に支えられ、オンラインでの交流が実現可能となりました。

今回、芦ヶ崎小学校3・4年生は、龍ヶ窪や川の展望台、石落しや見倉橋などクイズを交えてジオサイトを紹介しつつ、紅葉やおいしい野菜をアピール。佐渡や糸魚川の子どもたちに苗場山麓の魅力伝えてくれました。糸魚川の大野小学校は、文化祭で披露した劇で「塩の道」を紹介、佐渡の河原田小学校はペットボトルなどの海洋ごみがどれだけ自分たちの海を汚染しているか、といった調査結果を報告。それぞれの地域の特色が分かる発表となりました。

今回のようにユネスコの自然や資源活用の共通の考え方を持った他のジオパークと交流することで、自分の地域の特徴をより理解し、また子どもたちの好奇心をくすぐることで、実際に行って「ジオパークな旅」をするきっかけとなる交流が今後も広がっていくといいですね。来年10年目を迎える苗場山麓ジオパークの活動から目が離せませんよ！



苗場山麓ジオパークオリジナルカレンダー2024 販売中

今年で販売9年目となる「苗場山麓ジオパークオリジナルカレンダー」ができました。これまでに8回開催した苗場山麓ジオパークフォトコンテストの入賞作品を中心に作成し、四季折々の風景や、可愛くもたくましい動物の姿など、カレンダーをめくるときに楽しんでいただけます。毎回好評につき売り切れとなる商品ですので、お求めはお早めに。※万が一、売り切れの場合はご容赦ください。

・苗場山麓ジオパークオリジナルカレンダー2024 1部660円（税込・送料別）

【販売・お問い合わせ】津南町観光協会 電話025-765-5585



認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

白濱 彰洋さん



苗場山麓ジオパークのすばらしさを再認識（ガイド No.60 白濱 彰洋さん）

現在私は東京都に住んでおりますが、栄村を離れて2年近く経ち、あっという間に時が過ぎたと感じています。都心で生活をしていることで雪国栄村での暮らしも時に懐かしく思うこともあり、悠久の時間を経て形成された苗場山麓ジオパークの大自然の素晴らしさを改めて再認識しました。

日本有数の多雪地帯でありながら、縄文時代から独自の文化・歴史を育みながら人が住み続け、数多くの動植物が息づく雪のふる里と呼べる苗場山麓ジオパークには大自然の力を感じる、これぞジオパークと呼べるスポットが数多くあります。

苗場山麓に広がる秘境秋山郷には多くの温泉地が点在しています。赤褐色の温泉の小赤沢温泉、秋山郷唯一の硫黄泉で天候によって色が変化する屋敷温泉等がありますが、中でも秋山郷最奥の切明には川原から温泉が湧き出る珍しいスポットがあります。スコップで温泉を掘り、清流の冷たい川の水で水温調節、スペースを石で囲めば自分だけの野天湯の完成です。自然・大地の力が生み出した子どもから大人まで楽しめる秋山郷でも一押しのスポットです。

多くの方が眼前に広がる絶壁に圧巻する見玉公園の石落しも苗場山麓ジオパークを代表するスポットでしょう。津南町のグランドキャニオンと呼ばれるダイナミックな柱状節理は約30万年前、苗場山から噴出した溶岩が冷え固まったもので、長い年月を経て広大な絶壁と渓谷が形成されました。石落としという名称も雪解け時期に岩石がガラガラと音を立てて落ちるところからついており、シンプルで覚えてもらいやすい名称もとてもいいなと思っています。

最後になりますが、グリーンシーズンには自分のペースで自由に回れる自転車で、苗場山麓ジオパークの魅力を五感で楽しむジオサイト巡りはおすすめです。車や公共交通機関で来て自転車がなくても、栄村、津南町の観光協会で便利なスポーツタイプ電動アシスト自転車Eバイクのレンタルがありますので安心！私もEバイクを実際に乗って体感しましたが移動が楽で、坂道も何のその！風を切って走る爽快感もあり、楽しいですよ！

※冬季等時期によって休業、立入不可のスポットもありますので、事前に確認・お問い合わせください。



お知らせ

2月14日(水) 18:30～20:00 今年度のツアーのおさらいと認定検定について：津南町総合センター
2月24日(土) 13:30～14:30 第9回苗場山麓ジオパークガイド認定検定：農と縄文の体験実習館なじょもん

奮っ
て
ご
参
加
く
だ
さ
い



突撃しよう!となりのジオ便り～おおいた姫島ジオパークからこんにちは～(おおいた姫島ジオパーク 堀内 悠)

おおいた姫島ジオパークは、瀬戸内海西部の周防灘に浮かぶ「姫島」を中心とした、海域を含む東西14km、南北6kmの区域で、2013年に「火山が生み出した神秘の島」をテーマとして日本ジオパークに加盟認定されました。

姫島は、約30万年前以降に活動した7つの火山によってできた4つの小島が砂州で繋がって一つになった島です。島の各所に、火口跡や溶岩ドームなど様々な火山の地形がみられます。また、黒曜石や藍鉄鉱などの岩石や鉱物、植物やゾウの化石など、貴重な地質遺産が多く産出し、鉱泉も湧出しています。

～火山活動による大地の変動～

姫島の7つの火山は、30万年前以降のそれぞれ異なる時期に一度だけ活動した単成火山です。火山の活動以前に堆積していた200万年前頃以降の地層が、地下で生じたマグマの上昇に伴って隆起しました。隆起した地層には、断層や褶曲などの激しい変形がみられ、地層に含まれていた植物やゾウなどの化石も地表に現れました。

～姫島を形作った海的作用～

約2万年前の最終氷期には、瀬戸内海は陸地で、姫島周辺には川や湖などがあったと考えられています。その後、海水面が上昇し、姫島は海に囲まれた島になりました。

瀬戸内海は、浅く、閉ざされた海域のため、太平洋の潮汐の影響をうけ、強い潮流と大きな干満差を生じます。縄文時代前期には、現在よりも数mほど海水面が高く、姫島では、激しい潮流がぶつかる場所は削られ、潮流の緩やかな部分には土砂が堆積して砂州を形成し、4つの小島が砂州でつながり現在の地形ができあがりました。

縄文時代の終わりに海水面が下がり、砂州が離水すると、その上に人が住み始め、集落が作られていきました。島内から、縄文、弥生時代の遺跡が見つかっています。姫島の黒曜石を利用した石器は、海を渡り、西日本各地の遺跡から見つかっています。また、古事記や日本書紀にも姫島についての記述があり、古くから姫島の存在が知られていました。

～おおいた姫島ジオパークに遊びに行こう～

おおいた姫島ジオパークは、コンパクトで見どころ満載なジオパークです。大分空港からレンタカーが便利です。島に着いたら、まずはジオパーク拠点施設の「時と自然の希跡ジオパーク 天一根」でジオパークの概要と展示を見学してから島内を巡りましょう。自家用車なら3時間程度で一通り見学することができます。お食事は特産品の「姫島車えび」、「姫島ひじき」をぜひ召し上がってください。お待ちしております。



姫島全景



姫島の黒曜石



令和6年度 苗場山麓ジオパーク学術研究活動募集

苗場山麓ジオパーク地域を対象とした学術調査及び研究活動について、大学院生、研究者等を対象に調査研究費の助成を行っています。1件あたり上限10万円。ただし助成対象となる研究は1人、または1グループあたり1件とします。

●助成対象研究

苗場山麓ジオパークにおける地質学・地形学・考古学・歴史学・地理学・民俗学・植物学・生態学・社会学・観光学・苗場山麓ジオパークに関連した地域振興及び地域経済にかかわる調査研究等

●助成対象者

大学院またはそれに相応する教育研究機関において、調査・研究に従事している大学院生、研究者等初年度から調査研究を継続している3年以内の申請者（最長3年）

●応募の方法

苗場山麓ジオパークのホームページより様式1～4をダウンロードし、記入の上、書類を直接事務局まで郵送してください。【応募締切】令和6年1月31日（水）※当日消印有効

※詳細は苗場山麓ジオパークのホームページ（<https://naeba-geo.org>）

令和6年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金募集ページをご覧ください。

苗場山麓ジオパーク HP
令和6年度学術研究奨励事業

